



創立五年目を迎えて

会長 国峰善次郎



創立八
〇周年記念
事業・祝典も
関係の皆様御

努力により無事終了し、母校が更に大きな未来へ向かって打ち進んでいるのを見事につけ、「高々頑張れ!!」の言葉を会員諸君と共に送りたいと祈念している昨今です。

本会も、発足以来大勢の方々から御指導・御鞭撻を頂き、大きな希望をもって五年目に入りました。衷心より、先輩の皆様、中野敏宗校長を始めとする母校の先生方に、御礼の言葉を本会を代表して申し述べさせていただきます。

さて、会員相互の親睦、未組織OB会の解消、母校運動部の後援……等を目的に結成されて以来、各OB会の努力により体操部OB会を残して組織化が終了しました。応援部OB会においては下田茂夫君(五〇回)を中心として早々に発会を見、陸上部OB会では大田部保君(五二

回)の努力により、そして野球部OB会には中川保君(五二回)が従来の野球部後援会活動から活動性格を異にしたOB会を組織し、各OB会と横の連携を充分に取りつつその機能を発揮して、OB会発足万々才の姿を見せております。組織して終えばそれまでかと思われるのが人の常であります。これまでに固めた三氏の努力に敬服の辞を心から送りたいと思

います。これらの努力に刺激されてか、既存OB会もますますその充実を計り、また沈滞気味の組織も活を入れられ今後の活動の方向付けが図られているのを見ます。

こうした中で現役諸君もますます活躍され、バスケット部・バレー部・柔道部相撲班・水泳部が次々と全国大会に駒を進める事が出来ました。この陰では現役諸君の支援を各OB会が中心となり立派になされ関係の方々から感謝されるのを拝見する時、OB会の必要性を痛感した一人であります。こうした土壌が培われ

て来なければ、我々の活動も、母校の運動の発展も、その成果を見る事は出来得ないと思えます。その点、本会を通じて各OB会が胸襟を開いて現役支援態勢が採れたのも、考えて見れば本会発足当初の目的が達成出来たと充分肌を感じ取れます。

昨今、全県下に五八国体に向かってGOサインが出されました。スポーツ県宣言をされた清水知事、先輩の県体育協会浜名一雄会長(二二回)・県スポーツ振興事業団高橋邦雄理事長(二八回)・県教委中山尚郎体育課長(四〇回)、その他大勢の方々、県民のスポーツ参加への呼び掛け・指導を陣頭指揮しておられます。ここに、一県民として、取分けスポーツ愛好者の一人として、非常に心うれしく思っております。こうした社会環境を踏まえて、我々も十分に立場を考えて今後に臨みたいと思えます。そして、群馬のスポーツをこれまで育てて下さった方々と、今後県のみならず全世界にはばたく後輩のために、会員諸君にはスタンドプレーにならぬ様にそれぞれ頑張りてもらいたいと強く望みます。

石の上にも三年の諺もある様に、本会の活動も一応の発展を見る事が出来ました。これからの活動は、元々活動組織体より連絡協議会的な性格が強かった本会ですが、ぼつぼつ前者の性格が要求されて来る時期に差し掛かるのも近い将来の事と考えられます。ここに各OB会は、共になお一層の努力をして進んでもらいたいと思えます。同時に、今度改選された新役員を中心として、本会発展の方向

を見付けて行きたいと思えます。

なお、今までに本部役員をなされた方々には心から御礼の言葉を申し上げますと共に、会員諸君にその業績を伝えたいと思っております。今後の御活躍を祈念申し上げます。(五〇回・サッカー部)

モダンになった母校の玄関

(S五三・三)



新 役 員 の 抱 負



副会長に就任して



副会長
石井 清一

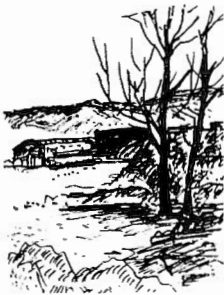
今から二〇年余り前、ほこりだらけのズック表の柔道畳の上で汗まみれになって稽古していた頃。時折道場を訪れ激励してくれた実の兄貴の様に頼りになる先輩。合宿では鬼にも蛇にも見えた先輩。何か差入れをしてくれた時は慈父の様に思えた先輩。よし俺も卒業したらこの先輩たちの様に後輩の面倒を見よう」と本気で思ったものでした。初めてのOB会で、恩師を囲み諸先輩と杯をくみ交し「翠樹影を浮かべては……」と蜜声を張り上げた時、同じ道場で汗を流し合宿で同じ釜の飯を食った者同士の何ともいえない心の触れ合いに感激し、OB会の素晴らしさに柔道部員だった事の幸福感に浸ったものでした。

そのOB会の集大成たる翠樹体育会が発足して早五年。国峰善次郎会長（五〇回）を中心とする幾多の先輩有志の大変な御苦労と各部OB会の絶大な協力のもとに、ここまで充実・発展して参りました。誠に同慶の極みであります。この度の役員改選で、図らずも本会の運営の一端を担う事と相成った訳ですが、改めてその責任の重大さを痛感するものです。

もとより前任役員諸兄に比べ浅学非才、平々凡々たる器である事は充分自覚している積りですが、一旦お引き受けしたからには会長を助け本会の目的に沿って一生懸命努力したいと思えます。

会則にある様に、飽くまでも本会は母校運動部を後援し会員相互の親睦を図る事などを目的として活動する事には変わりありませんが、従来からの自分の考えとして、この目的達成を急ぐ余り各OB会に負担が掛り過ぎその存続が危うくなる様な事があるのでは元も子もないと思えます。また、現役諸君への援助にしても、現場で指導される顧問の意向を反映したものにするべきだと思えます。後輩を熱愛する結果であつてもむやみやたらな口出しは控えないければならないし、我々の応援が現役諸君の重荷になつては気の毒です。いかに伝統ある高々運動部といえども、教育の一環としての部活動です。これらの事をよくわきまえ、他の役員と共に会長をより立てて、本会のますますの発展のために頑張りたいと思えます。よろしく御指導下さい。

(五七回・柔道部)



母校を思う



副会長
下村 幹貢

今回、翠樹体育会の役員改選によりバレー部OB会から一人役員として出向する様に依頼を受け話し会った結果、未熟ではあります私が副会長として国峰会長の手助けをする事に決りました。バレー部代表として出席するからには、出来る限りのお手伝いをする所存です。会員の皆様の御協力を是非お願い致します。

「ふるさととは遠くにあります。母校——という言葉があります。母校——それも人生において最も感受性の強い高校の頃——とは、卒業して年月が経つに従いその思いは年々歳々強くなるものです。その母校が勉学に運動にと隆盛になつて欲しいと思う時、自分の微力を省みず引き受けてしまいました。

翠樹体育会としては各運動部の一段の飛躍を願っていますが、近年現役の選手が、猛練習を重ね母校の運動部史に類を見ない好成績を挙げ、選抜に総体に団体にと頑張ってくれています。その時に、我々OBとしても、何らかの形で協力しなくてはならないと思えます。そう言う訳で、各OB会も部内での活動だけではなく、本会自体も今までの各OB会の上層団体としてではなく、母校運動部と一体の会として、より一層強力なものとして、後輩のために、母校のために、我々

のためになればと思っております。我々の青春を過した高崎高校が、より良い母校となるために頑張ろうではありませんか。
(六二回・バレー部)

よろしくお願いします



副会長
秋池 宗一郎

先日水泳部の同級生に会いましたが、やはり話は昔の頃の話で、年齢も気持も体力も、話の上では高校生そのものでした。高々を卒業して一二年も経っているのに、昔の友人と会うといつもそうです。古い先輩でも、年に一度のOB会で会うと、当時の学生気分が話してくれまして。

この度私は副会長をお引き受けしましたが、やはり「高々時代の気持をもう一度」という考えがあったからだと思います。役員の中で一番若輩の私は、諸先輩の一助になればと会計をお任せ付かりましたが、何分の御指導をお願い致します。

翠樹体育会の仕事をしておりますと、現役諸君の活躍が耳に入ってきて来ますので頼もしく思っています。東京オリンピックが行われたのは、私が水泳部の二年の時でした。私も、何とか四年後のメキシコ大会には出場したいと力の限りを尽した思い出があります。現役諸君は、人生に一度しかない青春に、悔いのない思い出の多い力一杯の努力をしてもらいたいものです。
(六五回・水泳部)

怯えと人間存在



東 秀 和
会計監査

この度、「翠巒体育」に抱負を一筆と
のことでしたが、中々抱負などという大
それたこともありませぬので、現在感じ
ていることを一言申し上げたいと思いま
す。

私は、昭和八年碓氷郡松井田町の食芝
寺に生れ、昭和二十一年四月高崎中学校
に御厄介になった訳です。思えば、この
頃から自然に対する怯えというものが芽
生えたと想像されます。確か中学二年の
秋、台風に因って、聖石橋が流され、
友人が川で自転車を流してしまつたと遅
れて来たことを覚えております。そんな
時、人間は自然の一従属物であるという
謙虚な意識を身に付けていました。そう
いう考え方の上に神（仏）という存在が
あって、神（仏）の前の人間は誠に小さ
く、自然とうまくやり繰り算段して行く
のが人間の知恵であるということを知る
人は知っていました。私は、人間が生きて
行く上で、怯えというものが必ず誰に
でもあると思います。野放図になり、便
利なものにおぼれ、我々はうぬぼれてい
るのではないのでしょうか。だが、人類が
滅びることをやめさせるような種々な知
恵が人間に備わっています。例えば、そ
れがレリジョン Religion というものであ
るかも知れません。

私が現在多少の畑を耕すのは、戦中・
戦後にかけての飢えの体験があるからで
す。それは、常に飢えの怯えがあるから
です。畑で土をいじっていて感じるのは、
前述したように世の中が便利になって、
余りにも人間が野放図になって自然を破
壊しています。土が死んでしまつていま
す。農薬のために土壌菌が死んで、ワラ
を土に三年いけておいても腐らずにピニ
ールを埋めたみたいで元のまま出て来る
のが現状です。こんな時、高中から高々
時代の夏休みに一日登校して、いやでい
やでたまらなかつた校庭の草取りが感謝
の気持ちで思い出されます。生きた土の上
で学んだことの喜びが、今、感じられる
のはいかにも愚かな自分でもあります。

人間が、自然を征服するのでなく、自
然と共に生きる知恵が日本人にはありま
した。便利であるからといって目先のこ
とばかりを考えるのでなく、せめて百年
先まで知恵と想像力を働かせるのが現代
を生きる我々の責任だと思ひます。その
想像力は、怯えから来るのであり、その
怯えというのは、人間の存在は弱いもの
だという認識から生まれると思ひます。
(五一回・応援部)

志を立てる



吉野 宏 一
会計監査

志を立て、幾度か打ちのめされ、道を

見失うことがある。そんな時、それを打
ち破るのは、自らの態度であり実行力で
克服することである。
どんな小さなことに對しても、人生は
真剣に取り組まなければならないが、人
間どんな環境に置かれても、そこで一〇
〇%の力を発揮するように努力しなければ
道は開けて行かないのではないだろう
か。挫折し打ちのめされたら、とにかく
考え、工夫し、そして実行してみること
で、失敗すればやり直せ。同じことの繰
り返しには何の進歩もないし、実行して
みれば、それから新しい工夫も生れ、失
敗することを恐れなくなるし、同じ間違
いを繰り返さなくなるであろう。

自分の道は大事なものであり、その道
を見失つたり切り開けなくなつた時、そ
れを助けてくれるものは自分の先輩であ
り、また友人である。
長い人生、自分を見詰め、歩み続けて
行きたいものである。
(五八回・剣道部)



両毛繊維株式会社

代表取締役

秋 池 次 郎 (四〇回)

高崎市常盤町一三〇
電話〇二七三(二二)三七八九

会 巒 翠 田 井 松

南中山ニット工業 孝 (四九回)

中 山 孝 (四九回)

真宗大谷派本照寺

東 秀 和 (五一回)

株三文字屋

布 施 隆 司 (五一回)

南中島屋商店

高崎丸東魚市場理事 長

中 島 徳 雄 (五二回)

県立安中高校教諭

農 林 業 森 慶 寿 (五二回)

上 原 博 男 (五四回)

武井歯科医院

武 井 義 之 (五四回)

佐藤農園

永 井 秀 明 (五五回)

永 井 秀 明 (五五回)

南すかや松井田店

高 麗 誠 之 (五六回)

OB 会 の 活 動

剣 友 会

剣 道 部

林 茂

剣友会は、去年より事務局を四人に増やし、各年代への連絡事項を密に出来るようにやっております。現在事務局は、毎月第三日曜日に打合せ会を開き、剣友会会則・会員住所録の作成、また今年から会員の近況報告を兼ねて機関紙「剣」を年四回発行出来るよう張り切っております。今年三月総会には、高崎商業高校OBとの合同稽古を行い、OB諸兄弟多数の参加を得て盛大のうちに行いました。事務局担当者として、その任の重大さを痛感すると共に、会員皆様の御期待に応じられるよう一生懸命努力しております。

今年も、剣友会の皆様の御協力をお願い致します。
(六八回)

翠 巒 クラブ

サ ッ カ ー 部

岸 秀夫

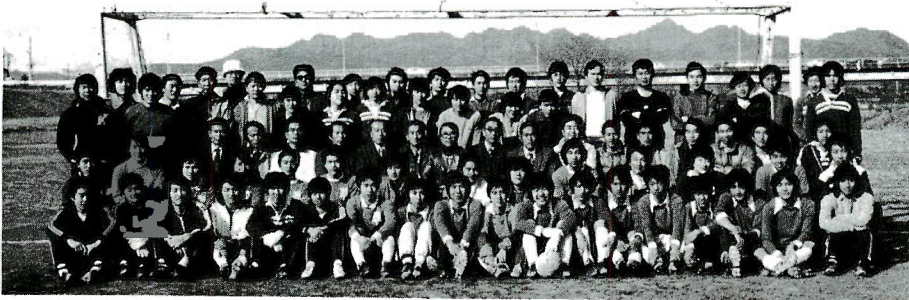
サッカーで新年を迎え、サッカーで年末を彩る私たちOB会です。毎年初蹴会併せて総会を正月二日に行い、賑々しく一〇〇名内外のOB・現役が夢中に成ってボールを追い後に総会が始まります。

特に今年は高々サッカー部創部三〇周年記念を兼ねて、魚与会館(高崎市八千代町)にて、来賓に中野敏宗校長、井上房一郎さん(一五回)、県協会副会長飯島徳治さん、県・市協合理事村中喬さん、初代顧問岩測定義先生(現仙台女子商業高校)、県協会審判部長高橋基治さんを迎え、国峯善次郎会長(五〇回)心尽しの樽酒を「校章」と「祝高崎高校サッカー部創部三〇周年記念」と銘打った枡で飲み干しました。なお翠巒体育会からは勝俣真副会長(五二回)が出席され、現役諸君に大きく喝を入れられ若いOBまで背筋を伸して挨拶に聞き入っております。

群馬三部リーグも、西村幸雄君(七一回)・中島庄司君(七二回)・赤羽英光君(七三回)が帰郷シブロック二位と成り、来期は二部入りを果たしたいと張り切っております。昨秋行われた高崎リーグも、蹴友会(群馬大学OB)の諸君が久し振りにプレー出来て初優勝し大いに沸きました。年長組は、毎年十一月二十三日(勤労感謝の日)に群馬テレビで放映される四十雀サッカーがあるので、若い者に負けじと頑張っております。

しかしボールは蹴りたし時間はなし組、いわゆる営業主を始めとする普段蹴れない連中と一緒に座敷サッカーも年一回は催しており、珍芸・美声に見とれ聞き

ほれいつしか集団で夜のネオン街に流れて行きます。
こんな事で、群馬リーグ・天皇杯・市民大会・高崎リーグと一年中動き回るOB会ですので、翠巒サッカークラブの会計さんは大変の様ですが会費も順調に集まっている様です。
(五五回)



サッカー部創部30周年記念 (S53・1・2)

上野国一社八幡宮

宮司

竹 林 文 彦 (四五回)

高崎市八幡町六三二
電話〇二七三(四三)二六四八

資生堂チエリンスストア
三河屋商店

秋 野 和 平 (五〇回)

安中市安中三一二四
電話〇二七三(八)〇四六七

菅洞宗 室田山長年寺

住 職

喜 美 候 部 正 志 (五〇回)

群馬郡榛名町下室田一四五一
電話〇二七三(七四)〇〇六八

新日本自動車販売株式会社

専務取締役

木 村 博 明 (五〇回)

高崎市下小島町一二九九
電話〇二七三(六)二五三〇三

今後が楽しみ

柔道部

桜井 弘

今年の新年会は、今井孝造先生(現富岡高校)・江原隆起先生(保健体育科)をお招きし、二月十一日小香女(高崎市旭町)にて盛大に催した。

次に出席者を列記する。

- 大井 宏(五一回) 田村 悟(五五回)
- 平野 展司(五五回) 生方 将夫(五六回)
- 桜井 弘(五六回) 石井 清一(五七回)
- 岸 泰徳(五七回) 白石 祝美(五七回)
- 塚越 俊治(五七回) 吉田 克彦(五八回)
- 川田 正彦(六〇回) 貝野 征生(六二回)
- 小見 章雄(六六回) 須藤 忍(六六回)
- 田口 秀男(六六回) 庭田登志男(六八回)
- 神宮 裕(六九回) 小坂橋一正(七二回)
- 田淵 吉二(七二回) 松田 洋(七四回)
- 吉原 成哲(七五回)

今回は、夏季合宿中に開く予定である。

田淵吉二君は、昨年、第三二回青森国体の茨城県代表に選ばれて大活躍、茨城準優勝の原動力となった。幸い今年、筑波大学を卒業し西邑楽高校教諭としてもどって来た。群馬県での活躍が期待出来る。吉原成哲君は、やはり昨年、順天堂大学医学部に入學し、一年生ながら東日本医科歯科大学大会に出場、中量級で優勝。今後の活躍が楽しみ。また関口茂樹君(六三回)が、昨年多野郡鬼石町の実家にもどり家業の文具商を継いだ。関口君は、早稲田大学法学部在学中、柔道部に籍を置き昭和の牛若丸と異名を持つ大沢慶己八段に師事した。これからは、関

口・田淵・吉原の三君が折を見て後輩の指導に当たってくれるとのこと、頼もしい限りである。

なお、鈴木英俊(五四回・山英鈴木商店)・冬木金雄(五四回・冬木工業)両氏には、いつもながら多大な御寄附を頂き感謝申し上げます。(五六回)

OB会だより

山岳部

石附 一利

去る四月八日、山岳部OB会が魚とし(高崎市成田町)において久し振りに開催されました。

部創設以来二〇年を経て、大学山岳部で現役活動をする者、遠いヒマラヤへ遠征する者、そしてすっかり山に疎遠な者など、一五〇名を越すOB会と成っております。

近年はOB会の活動不足から現役との交流が意外と少なく、日常の指導交流、また仮に事故があつた場合の救助活動がスムーズに行えないのではないかと言う一部会員の声を反映して、五年振りに三〇数名のOB、二〇名の現役、それに顧問の先生が集まりました。しかしそこは同じ釜の飯を食べた仲、議事運営は皆神妙でありましたが、懇親会では現役諸君(禁酒)を交じえての楽しい一夜を過ぎました。

- 一、役員交代
- 二、規約の一部改正
- 三、会費徴集

であり、新会長に清水正爾君(五五回)が選任され、続いて力強い新会長の挨拶があり、いつの間にかホールも空に成り盛会裡に散会致しました。(六五回)



OB会発足

水泳部

小此木 勝

昭和五十二年六月、翠巒会館において、水泳部OB会の第一回総会が開かれました。今までも現役の合宿や忘年会の時期などにOBが集まっていたましたが、今回の様にOB会として正式に集まった事は初めてです。翠巒体育会の国峰善次郎会長(五〇回)や顧問の先生の勧めで、ようやく水泳部OB会が出来ました。

第一回総会では、約一五〇人程のOBが集まり会長を田胡吉明先輩(五四回)にお願ひし、二次会はニューナベヤ(高崎市乗附町)にて現役を交えて華々しく懇親を行いました。折しも水泳部では全国大会に出場する選手が出るなど、OBもその活躍に満足気でありました。

これからは年に二度、合宿の時と年末に、OB会を開く事が決りましたので、現役の応援と各OB会相互の親睦を深めたいと思います。(五六回)

和風レストラン 淌漁荘
ミュージックスポット イレブン

田 胡 吉 明 (五四回)

高崎市 柳川 町 九
電話〇二七三(二六)六一六五

新刊書籍・専門書・文庫・学参・雑誌・辞典
インザワ書店

石 沢 毅 (五六回)

高崎市 大橋 町 一
電話〇二七三(二五)九二〇三

山口歯科医院

山 口 保 男 (五七回)

高崎市 中紺屋 町 一六
電話〇二七三(二二)五三〇四

グリル 栄寿亭

若 林 元 (五八回)

高崎市 新 町 八
電話〇二七三(二二)二七四〇

陸上競技と私



大須賀正臣

翠巒体育会が昭和四十九年五月に設立され、本来ならばそれ以前に発足していなければならぬ我が陸上競技部OB会は、諸般の事情から延び延びになり翌五十年二月難産の末産声を上げました。今後この会をより一層発展させながら、現役の活躍を暖かく見守って行こうと考えています。今回投稿の機会が与えられましたので、私と陸上競技とのかかわり合いについて記してみたいと思います。

私が陸上競技から離れられなくなったのは、遠く小学生時代の運動会で毎年テニスを切っていたのが原因しているのかもしれない。そのためもあってか中学に入学して何のためらいもなく陸上競技部に籍を置いたものの、一・二年のうちは試合に出たという記憶が全くないので余り練習らしい練習をしなかったでしょう。あいまいな書き方ですが、この数年の事が今もってどうしても思い出せません。はっきりして来るのは、中学三年になって県大会で、二〇〇M・八〇Mハ

ードル・八〇〇Mリレーの三種目に優勝してからです。人生は、すべて偶然の積み重ね。あの時、もしも県大会で優勝しなければ、と考えると、また違った人生を歩んでいたと思います。そんな訳で現在自分でこれをやろうと決心し歩み始めたら、迷わずただひたすら全力を尽す事が、たとえ期待したような結果が出なかったとしても後悔しないための必須条件ではないかと思えます。

高々へ入学した当初は陸上競技を続ける意志はそれ程なく、大半の生徒と同じように勉強一筋と考えていたのですが、たまたま当時の主将であった小沢興康氏(五五回)の「お前には陸上競技をやつてもらおうよ」という一言で、半強制的に入学させられる破目になりました。当時の先輩は、良い意味でこわく、また実によく面倒を見てくれたものでした。当時母校高崎第一中学校の男子部員は七人で、五人が高々へ二人が高崎工業高校へ進学しましたが、高々ではそのままそっくり五人が入部し他の中学からは一人も入部しなかったのですから珍しく、またそれだけに中学からの延長で比較的スムーズに雰囲気は溶け込めたものでした。その五人、木暮登君・渋谷晃正君・菅沼貞雄君・皆川淳一君、それに私、その後も絶える事なく親交を深めています。

入学一カ月後の県大会、一一〇Mジュニアハードルで優勝。続いて関東では三位入賞、そして全国へとトントントンと進んだのは我ながら驚いた次第です。当時の練習は、監督が与えた練習計画に基づいて主将を中心にW・UからW・D

まで毎日毎日型にはまっていたいわゆる堅苦しいのではなく、自分たちで計画を立ててそれに基づき自主的に練習を進める中で監督の内田光之先生(現伊勢崎工業高校)が技術的なアドバイスをしてくれて向上を図って行くという毎日でした。自主的にとというのは、強い意志を持って臨めば大きな効果が得られる反面、甘えてしまふとしまりのない遊び半分の部活動になるという一長一短があります。この時は、その良い面が現れたといえるでしょう。

しかし、その自主的な練習の悪い面が二年の時にいみじくも現れてしまいました。一年の時は、ほとんど練習らしい練習もせず、もつとも期間がなかった訳ですが、全国大会へ出場したために、その後の一年間やはり陸上競技を甘く見ていたのでしょうか。二年では、県大会でハードルを含めて四種目に好成績を挙げ、関東大会でもかなり活躍出来るだろうと予想していたものが全種目共準決勝で落選してしまい失意の内に帰校、初めて陸上競技の厳しさ、自分の甘さを味わう事になりました。

残された一年、来年こそはこの惨めな気持ちを味わいたくないと出直す覚悟を決め、それから真剣に練習に打ち込みました。学校と城南と自宅のコースを、自転車で回るだけの毎日でした。やはりその頃が、陸上競技に対して、一番ひたむきだったような気がします。その結果、三年の関東大会では、一一〇Mジュニアハードルにおいて大会新で優勝、一〇〇M・二〇〇Mで入賞という成果を得まし

た。全国大会への壮行会の席上、「翠巒影を浮かべては……」を歌って壮行してくれた感激は、その後機会あって応援歌を歌う度に胸熱く懐かしく思い出されます。全国大会は、ハードルを一台跳んだ所で肉離れを起し、棄権を余儀なくされました。

その後再三に渡る肉離れやアキレス腱断裂(大学三年時)にもめげず中一から数えて一五年歩り続けられたのも、そして現在でも体育の教師として陸上競技と深くかかわり合っているのも、高々時代の三年間の生活が大きく影響しているのは事実です。現在、先輩として母校の活躍を祈りながらも、ライバル中央高校にいて「打倒高々」を目標にし努力をしています。思い付くままに、個人的な事を書いてきました。現役の諸君の健闘を祈ります。

第一一回高々・前高定期戦

一〇〇M決勝(S三二・一〇)



左：木暮登君(57回)

先輩、頑張ってます

現役の活躍 その1



ラグビー部

- ◇全国大会県予選 (五二・九一―二)
 - 子選リーグ 四勝〇敗(Cブロック一位)
 - 高々61 — 4 前橋南高
 - 高々35 — 17 農大二高
 - 高々27 — 4 高崎商
 - 高々33 — 0 前橋工
 - 決勝トーナメント
 - 高々20 — 4 伊勢崎東高 一回戦
 - 高々52 — 3 太田商 準決勝
 - 高々17 — 4 農大二高 決勝
- ◇全国大会北関東予選 (五二・一一―)
- 高々9 (9 | 24) 52 埼玉・熊谷工
- 0 | 28
- ◇新人大会 (五三・一一―二)
 - 二年生の部
 - 子選リーグ 三勝一分(Cブロック一位)
 - 決勝トーナメント
 - 高々56 — 0 前橋商 一回戦

剣道部

本/勝

- 高々24 — 8 太田工 準決勝
- 高々16 — 10 中央高 決勝
- 一年生の部
- 子選リーグ 三勝一敗(Cブロック二位)
- 決勝トーナメント
- 高々12 — 13 桐生高 一回戦
- ◇選手権大会 (五二・九)
- 高々8/4 — 4/1 玉村高 一回戦
- 高々6/3 — 6/2 中央高 二回戦
- 高々7/4 — 1/1 桐生高 三回戦
- 高々6/3 — 6/2 農大二高 準決勝
- 高々1/1 — 8/4 藤岡高 決勝
- ◇市民大会 (五二・一〇)
 - 高々3/2 — 3/1 農大二高 準決勝
 - 高々6/3 — 3/1 高崎工 決勝
- ◇新人大会 (五二・一一)
 - 高々9/5 — 1/0 渋川西高 一回戦
 - 高々8/4 — 3/1 玉村高 二回戦
 - 高々9/5 — 3/0 中之条高 三回戦
 - 高々8/4 — 3/1 渋川高 四回戦
 - 高々3/2 — 5/3 高崎工 準決勝

庭球部

- ◇一年生大会 (五二・八)
 - 大竹敦之・松本賢一組 ベスト4
 - 丸山昌弘・吉村 誠組 ベスト8
- ◇新人大会・全日本団体戦県予選 (五二・九)
 - 高々3 — 0 渋川工 二回戦
 - 高々2 — 0 前橋高 三回戦
 - 高々1 — 2 農大二高 四回戦(ベスト8)

水泳部

- ◇関東インドア兼全国団体選抜県予選 (五二・一〇)
 - 子選リーグ 勝点2(Bブロック三位)
 - 高々2 — 1 高崎商
 - 高々0 — 3 高崎工
 - 高々3 — 0 桐生高 ベスト6
- ◇経大杯 (五二・一一)
 - 大竹敦之・原 敬組(一年) ベスト8
- ◇新人大会 (五二・九)
 - 一〇〇M自由形
 - 石田鉄光(一年) 1分06秒2 一位
 - 糸井良弘(一年) 1分08秒6 三位
 - 二〇〇M自由形
 - 石田鉄光(一年) 2分30秒5 二位
 - 土屋崇志(二年) 2分50秒6 三位
 - 四〇〇M自由形
 - 勝沼英晃(二年) 6分08秒5 一位
 - 一五〇〇M自由形
 - 勝沼英晃(二年) 25分21秒6 一位
 - 一〇〇M平泳
 - 小川 淳(二年) 1分23秒3 一位
 - 山岸祐二(一年) 1分27秒0 三位
 - 二〇〇M平泳
 - 石井克明(二年) 3分10秒9 一位
 - 多胡 淳(一年) 3分19秒2 二位
 - 一〇〇Mバタフライ
 - 美細津正(二年) 1分16秒5 一位
 - 糸井良弘(一年) 1分20秒8 二位
 - 二〇〇Mバタフライ
 - 美細津正(二年) 3分08秒4 一位
 - 小川秀樹(二年) 3分40秒6 二位
 - 一〇〇M背泳
 - 萩原正己(二年) 1分39秒3 二位
 - 二〇〇M背泳
 - 倉林武美(二年) 3分10秒1 一位
 - 二〇〇M個人メドレー
 - 小川 淳(二年) 2分48秒3 一位
 - 倉林武美(二年) 3分06秒7 二位
 - 四〇〇M個人メドレー
 - 山岸祐二(一年) 7分32秒7 一位
 - 四〇〇Mリレー
 - 高々(萩原・土屋・小川淳・倉林) 4分48秒2 二位
 - 八〇〇Mリレー
 - 高々(糸井・石井・勝沼・小川淳) 11分05秒8 一位
 - 四〇〇Mメドレーリレー
 - 高々(小川淳・石井・勝沼・糸井) 5分19秒7 一位

株式会社 白田不動産

代表取締役社長

白田 信 昭 (六二回)

高崎市請地町三
電話〇二七三(二二)五四〇六

有限会社 下村工業

専務取締役

下村 幹 貢 (六二回)

高崎市貝沢町三七〇―七
電話〇二七三(六二)二六六九

先輩、頑張ってます

現役の活躍 その2



バレー部

バレーボールは平和の橋

— 全国大会出場を祝して —

顧問 岸 清

第九回全国高校バレーボール選抜優勝大会出場は、本当に喜ばしい事で、皆様と共にこの幸せをかみ締めたいと思いません。学校側・同窓会・父兄・市民を始めバレー部OB会の皆様には、暖かい協力を頂き有難うございました。心から御礼申し上げます。

昭和五十二年は、高々運動部の輝ける年でありました。県高校総体三位、バスケット・ラグビー・水泳などますます栄誉ある伝統を造りつつあります。

バレー部の北関東・全国大会出場は、福田超夫総理(二一回)を始め全国各地の同窓生から心からの声援・支援が寄せられ、バレー部OB会長片野恒氏(四九

回)を中心に地元OBたちの運動により人々の援助が結集されました。父兄会の物心両面の差入れにも感謝しております。学校側では中野敏宗校長を始め応援部中心の応援団、それにTV放映も、学校関係者すべての心に平和をもたらす大きな懸橋となつて行つたと思われまふ。

夜を日に継ぐ練習と大学受験という勉強は、いやおうなしに若獅子二九名に苦悩・試練を課して来ます。しかし、チームワークにより悩みを乗り越え己に克ち優勝によって苦しみは喜びに転化し小英雄に自信と誇りとを植え付け、人間性を育てて行く事でありましよう。時間も部費も限られて来ます。個人的・家庭の出費も決して少なくありません。ケガや病気にも打ち克たねばなりません。部活動は、人生の生き方を暗示してくれる面があります。

選手たちに同情し理解してやる事は、彼らを伸す上に大切な事でしょう。が、必要以上に甘えさせたり、過保護には慎みたいものです。将来社会に生きるための哲学——知恵と体力と人格——を身に付けて行く様なバレー部の発展を、皆様と共に祈る訳であります。高々運動部・翠巒体育会の発展を、関係者の皆様よろしくお願い申し上げます。(国語科)

監督・菊地俊二(保健体育科)

マネージャー・大山正行(二年)

選手・井上 聡・菊地俊哉・北爪孝史・清水道之・白石 誠・高橋浩生・中山雅史・原 到(二年)

桜井 隆・高橋孝治・高山茂男・深沢伸二(二年)

第九回全国高校バレーボール選抜優勝大会の戦績

◇ 第九回全国高校バレーボール選抜優勝大会の戦績

県予選(新人大大会) (五三・一)

高々2 — 0 高崎工 二回戦

高々2 — 0 太田商 三回戦

高々2 — 0 伊勢崎東高 四回戦

高々2 — 0 前橋商 決勝リーグ

高々1 15 15 11 15 2 桐生商

高々2 15 15 14 16 1 高崎商

北関東予選 (五三・二)

高々2 15 15 15 3 0 国学院大学

高々2 15 16 14 14 0 栃木高 準決勝

高々2 15 16 7 14 0 高崎商 決勝

全国大会 (五三・三)

高々2 15 15 6 15 1 岡谷工 一回戦

高々0 7 7 15 15 2 藤沢商 二回戦

全国大会に出場して

二年 高橋 浩生

全国大会に出場すると言う事は、我々にとって一つの解答でありました。何の解答かと言いますと、我々が高々でバレーボールにどれ位情熱を懸けて来たかと言ふ解答であります。

僕はいつも思います。「バレーの試合が、ただ単に勝負を競うだけのものならば負ければ良い」と。しかし、我々は勝

たねばなりません。なぜならば、我々がただ単にバレーを行つて来た訳ではないからです。勝負に勝つ」と言う事は、その人物に勝つ資格が出来て初めて勝たせてもらえるからです。我々は、その資格を取るために、出来る限りの事をやって来ましたが、そして、やつの事でその資格を取る事が出来、全国大会出場が出来た訳です。

しかし、我々は、先輩方の力を忘れた訳ではありません。この資格を取れたのも、先輩方が取りやすい様に色々下地を作つて下さつたお蔭です。新チーム結成の時、僕は先輩方に、「県内のチームには一〇点以上点をやらない」と誓いました。しかし、残念ながらその約束を果せませんでした。その事を深く反省すると共に、この場を借りておわび申し上げます。北関東大会の前に県内の大会があった訳ですが、その大会で優勝を逃してしまいました。その時先輩方からしかられるどころかむしろ元氣付けられ、我々は次の大会に向けて新たな闘志を燃やしたものでした。そして、その様な親愛なる先輩方の御恩に報いる時が来たのです。

北関東大会優勝。僕は、やつと肩の荷が降りた気がしました。同時に、やつと先輩方に喜んでもらえる時が来たと感じました。優勝カップを手にした時、自分が高々で毎日バレーを続けて来た事が間違いでなかったと思うと、ただ涙があふれて来てどう仕度もありませんでした。

全国行きが決まると、連日の様に先輩方から手紙などで激励され、「我々だけが全国大会に行くのではない。高々バレー

―を作つて来た先輩、そして翠巒の元に集まつた高々健児全員が、我々と一緒に行くのだ」と感じ、更に更に闘志を燃やしたのであります。そして、我々は先輩の心と共に東京へ向かつたのであります。

東京都体育館に立つた時、「ああ、や」とこまで来た」と思い、我々の後には何十人何百人もの先輩方が付いていてくれると思うととても心強かつたです。東京の空気はまずいと言うのに、この東京都体育館で大きな深呼吸をし、「ああ、うまい空気だ」と思ったのは僕一人だけだつたでしょうか。

第一回戦、信越代表長野・岡谷工業高校。第一セット、スタート悪く、我々は思い通り動けずただボールのみを追うばかりでした。そして、第一セットが終るとしばし呆然としておりました。第二セット、後がない我々はその緊張感がむしろ付を呼んだのでしょうか、15―6でこのセットを物にしました。第三セット、

当に死闘。我々も必死だつたが、相手も必死。ところが、勝利の女神か、高崎のダルマさんの片目が、我々にウィンクしたのであります。土壇場で我々にプロックポイント・サーブポイントが続き15―13でこのセットを物にし、第一回戦を飾る事が出来ました。ただ、応援に駆け付けて下さつた先輩に、「余り心臓に良くない試合をするなヨ」と言われましたが……。

翌日、第二回戦、我々のライバル神奈川・藤沢商業高校戦。これに勝てば優勝も夢ではないと言う事で、全員一致団結

してこの試合に臨みました。藤沢商業は「せこいバレー」と言われますが、実際は細い所まで注意が行き渡つていて良いチームであり、第一セットも第二セットも知らぬ間に点を取られた感じでした。そして我々は、健闘むなしく共に15―7で負けてしまいました。負けた時は悔しく、もう一試合先輩方に我々のプレーを見てもらいたいと言う欲求で一杯でした。しかし、負けてしまった事は仕様がありません。その時我々は、大会に出場している優れた選手の技を盗んで行こうと、頭を切り換える事だけで精一杯でした。

現在我々は、新しい目標に向かい歩み始めております。全国の力を目の前に見て来た事は、我々に新しい活力を与えてくれました。素晴らしい力、スピード、高さ、迫力。六月には、再び東京において関東大会が開かれます。今度は藤沢商業に負けられません。絶対やり遂げますよ。その事が、多くの面で我々の力になつて下さる先輩方に報いる道でもありません。

バスケット部

◇新入大会・全国選抜大会県予選
第一次予選

高々105	48高崎工	二回戦
高々75	23農大二高	三回戦
高々71	62富岡高	決プロック 勝
決勝リーグ		(五三・一一)
高々64	53高崎商	
高々85	61渋川高	
高々54	56中央高	

二位

山岳部

二年 青木 幹昌
◇夏山合宿 飯豊連峰 (五二・八)
今回は、人の多いアルプスを避け、新潟・福島・山形三県にまたがる飯豊連峰の縦走を行った。

◇冬山合宿 長野・野沢温泉スキー場 (五二・一二)

高校生の冬山登山は禁止されているので、雪に慣れるという意味とスキー練習を兼ね、スキー場で合宿を行った。

◇春山合宿 谷川連峰 (五三・三)
冬山より天候の安定する春山で、基礎的な雪上技術習得とその実践登山を行った。

◇新人歓迎登山 裏妙義 (五三・四)
文字通り新入部員歓迎の登山である。

翠巒体育会

総会報告

副会長 石井清一

昭和五十三年度翠巒体育会総会は、五月十五日(月)、高崎セントラルハイツ(高崎市常盤町)のレストラントカシマヤローズにおいて、六〇名余の各OBの参加を得て盛大に行われました。母校より中野敏宗校長先生を始めこの四月に着任された滝上豊太郎教頭先生や各部顧問の一〇数名の先生方を迎え、更に高々運動部育ての親ともいべき清水貞保先生(三〇回)・岡田由重先生も出席されました。

(六五回・水泳部)の三氏、会計監査に東秀和(五一回・応援部)・吉野宏一(五八回・剣道部)両氏を新たに選出致しました。機関誌「翠巒体育」の編集は、従来通り田中彰編集部長(五〇回・サッカー部)を中心に行う事となりました。また本年度の事業方針としましては、前年度にない本会の目的達成のために全員で努力する事を確認しました。

総会は、議長に片野恒氏(四九回・バレー部)を選出し、事業報告・今計報告が承認され、続いて役員改選に移りました。国峯善次郎会長(五〇回・サッカー部)の留任を決めた後、他の役員はマンネリ化を防ぐため大幅に入れ替り、副会長には石井清一・下村幹貢(六二回・バレー部)・秋池宗一郎

総会終了後の懇親会は、新教頭以下各部顧問の自己紹介に始まり、和やかな歓談が繰り広げられました。最後は一同輪になって「翠巒」を斉唱し、往時をしのびつつ散会致しました。
なお、タカシマヤローズの安藤藤郎支配人(五七回・サッカー部)の種々の御配慮に心から感謝して総会報告とします。(五七回・柔道部)

